

# 校長室通信

令和8年7月10日号  
志免町立志免西小学校  
高良 祐治

7月に入り、徐々に気温が高い日が多くなってきました。額に汗をにじませながら、元気に歩いて登校してくる子どもたちの力強い足取りと笑顔に、日々の成長を感じています。

間もなく夏休みがやってきます。多くのご家庭では、子どもだけで日中を過ごすことになり、安全面はもちろんのこと、「ゲームやスマホばかりの生活になってしまうのではないか」「冷たいものばかり食べたり飲んだりして、だらだらと過ごしているのではないか」等、見ることができない時間帯の子育ての心配が大きいのではないかと思います。

朝は自分で起きて、涼しいうちに宿題や読書、自由研究などに勤しみ、熱中症に気を付けながら友だちと元気に外で遊び、遅れないように習い事に自分で向かい、夜は今日あったことを楽しく語り合う一家団欒…。こんな理想の子どもはめったにいません。でも、親は自分が子どものころはさておき、理想を目指したくなるものです。

## 意義を伝える

夏休みは、様々な課題が出されます。子どもも親も「夏休みの宿題はたくさんあるもの」という意識があるでしょうし、「何とか終わらせるもの」という感覚ではないでしょうか。

与えられた課題をきちんと終わらせるということは、社会生活を送るうえでとても大切なことです。一方でこれが「子どもを机に縛り付ける」ために使われているのであれば、子どもにとって苦行でしかなく教育効果も半減してしまいます。

教員間でも確認したのですが、「この課題をすると、自分にとってどんないいことがあるのか」説明するようにしています。それも「将来役に立つ」といった漠然としたものではなく、「この漢字を読めるようになると、こんな本が読めるようになる」「この計算がスラスラできるようになっておかないと、次の学年のこんな内容できっと困る」といった具体的な意義や目的を示すことで、子どもが納得して取り組めるようにしておくことが大切です。

もちろん、つまずいた時には、励ましたり支援したりすることも必要でしょうし、やり遂げた時には、しっかりと評価し、認めてあげたいものです。

## 自己管理

手前味噌ですが、我が子(双子)が幼かった頃、テレビゲームをする時間について親子で話し合い、「1日〇分ぐらいはしたい」ということを決めて、1枚当たり10分の「ゲームをしちゃう券」をつくらせて子ども

に渡していました。子どもは、1週間分の券を受け取り、ゲームをする際には、母親に今から遊ぶ予定の時間分の券を渡し、タイマーをかけて遊んでいました。「ちょうどいいところ」で時間になった場合は、追加の券を渡して遊んでもいいのですが、週の後半で遊ぶ時間が減っていきます。

こうすると、子どもなりに時間を調整して遊ぶようになりますし、切り替えもしやすかったようです。親がいないときにこっそり遊んでいたのかもしれませんが…。

## 上からではなく共に

自由研究など、子どもが自分で課題を決めるものは、大人から見ると「しょうもないテーマ」がほとんどです。そんな時に、上から目線で、「もっとこんなテーマで！」と教えたり押し付けたりするのではなく、いったん子どもの目線に降りてみて、ちょっとだけ一緒にやってみるといいと思います。すると、思ったより難しすぎたり、逆にあっさり解決したりして、テーマとして適していないことなどに気付くものです。

子どもにとって、親と一緒に「どうしてかな?」「えーっ!」「すごい!」などを感じてくれた経験は、ずっと記憶に残るものです。

子育ては、誰も教えてくれず、最適解は誰にもわかりません。正解はないのに「あるべき論」に縛られると苦しくなってしまいます。

子どもと一緒にいられる幸せをかみしめて、楽しみを見つけていただきたいと思います。